

## <実行委員会企画>

### ●ラウンドテーブル【6月28日（日）13:15～15:45 札幌校3階教室】

**RTⅠ：家庭科のいまを問い直す** 担当：増淵哲子（北海道教育大学札幌校）

報告者：青木香保里（愛知教育大学）

中森千佳子（金城学院大学）

前田 賢次（北海道教育大学札幌校）

コメンテーター：鶴田 敦子（聖心女子大学）

コーディネーター：堀内かおる（横浜国立大学）

趣旨：新学習指導要領は「総合」重視から一転「教科」重視の方向を打ち出し、他方「食育の推進」のように教科の枠を残しつつの統合を行いました。家庭科の状況は危機的です。授業時数は実質的には減少の方向をたどり、教育内容の統合はむしろ家庭科の揺らぎにもつながりかねません。「家庭科のいま」をこのラウンドテーブルでしっかり見つめてみたいと思います。

青木香保里さんからは、教科教育学研究の立場から家庭科の新学習指導要領を読み解いていただき、そこではどのような家庭科が想定されているのか、私たちは何をこそ大切にしていくなのかを、中森千佳子さんからは、家政学原論研究の立場から家庭科の基礎学問としての家政学が現在いかなる展開をとげているのか、家政学の独自の立場を今日どのように捉えるのかを、前田賢次さんからは、教育学研究の立場からカリキュラムの中の家庭科の位置づけを教育学がどのように捉えているのかをお話いただく予定です。

### RTⅡ：地域とともにつくる家庭科の学びを、小・中・高の実践から考える

担当：中村公子（北海道教育大学旭川校）

報告者：佐竹浩樹（札幌市立あやめ野小学校）

世戸聡子（北海道教育大学附属旭川中学校）

秋山玲奈（北海道登別明日中等教育学校）

コーディネーター：赤崎真弓（長崎大学）・川邊淳子（北海道教育大学旭川校）

趣旨：家庭科の学習指導においては、基礎・基本となる知識・技能を活用し、様々な課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力を生活実践力として育成することを目指すことが求められます。それには、家庭や地域との連携をいかに図っていくかが重要です。そこで、このラウンドテーブルでは、地域とともにつくる家庭科の学びのあり方を、小・中・高の実践から考えてみたいと思います。

佐竹浩樹さんからは、農業施設と関わりながら、働く人々の「苦労や喜び」「願いや思い」を「頭で分かる」ことから深い理解や学びの実現につなげること、世戸聡子さんからは、批判的思考を通して、地域の食材を用いた食生活を創造していくこと、秋山玲奈さんからは、保育実習を通して野菜のもつ本来の魅力を再発見し、健康的に正しく食べることを五感で実感すること、について報告をしていただきます。そこから、地域にひらき、地域とかかわり、地域とつながり、地域にねがず家庭科教育について、議論を展開していきたいと思います。